

学校法人敬心学園 日本福祉教育専門学校
令和 6 年度 第 1 回学校関係者評価委員会 議事録

日 時：令和 7 年 2 月 18 日（火）15：30～17：00

場 所：日本福祉教育専門学校 本校舎 7 階 172 教室

出席者：（委員）

内野 靖（一般社団法人 ディーセントワーク推進会 代表理事）

松山 慎司（社会福祉法人 西東京市社会福祉協議会 総務課 課長補佐 兼法人運営係長）

宮本 隆史（社会福祉法人 善光会 理事 兼 最高執行責任者 兼 統括施設局長）

安井 佑（TEAM BLUE/医療法人社団 焔 理事長）

（学校）

岸本 光正（日本福祉教育専門学校 校長）

吉田 智哉（日本福祉教育専門学校 統括事務部 部長）

東 康祐（日本福祉教育専門学校 通学事業部 部長）

沖 大佑（日本福祉教育専門学校 通信教育事業部 部長）

後藤 健（日本福祉教育専門学校 教務課 課長代理）

小浜 悠樹（日本福祉教育専門学校 学務課・書記）

（敬称略）

【議題】

1. 岸本校長挨拶

日本福祉教育専門学校は敬心学園の中でも一番古い学校で創立から 40 年が経ち、これまでの歩みを振り返りつつ、未来に向けて再スタートを切ろうとしている。

本校の目指す方向性として、「未来志向」と「学生主体」の二軸で”学び”を捉えていこうと考えている。これからは学校からの知識・技能の伝導ではなく、学生のジョブキャリアと学びをサポートすることにシフトしていきたい。

現在、「KEISHIN.net」という新しいデジタルツール（ラーニングマネジメントシステム）を、敬心学園全体で自社開発しており、グループ校では令和 7 年 4 月から、本校では令和 8 年 4 月から導入を予定している。

また、相互コミュニケーション性を持たせた新しい通信制の学びを令和 8 年 4 月に稼働する予定で、今まさに準備を進めている。予てより同窓会会長である松山様からも卒後教育と卒後の情報発信を強化してほしいという声もいただいております、卒後プログラムについても KEISHIN.net を活用して、令和 8 年度以降本格的に稼働できるように準備している。

これからは「未来志向で学生の学びを支援する」という方向性の中で、学生にとってより魅力的な授業や事業を展開していきたい。

2. 出席者自己紹介

外部委員および学内委員の自己紹介が行われた。

3. 委員長の選出

委員長の選出を諮り、松山慎司氏が委員長に選任された。

4. これからの”学び”の方向性について

岸本校長より、令和8年4月からの「通信教育のあり方の変更」について報告された。

今回の変更は、学生目線で学びたい方法という観点で新しいサービスを考え直した。今後は「通学」と「通信」の学びがボーダレスになっていくと見据え、通信と通学の「良いところ」を融合した、学ぶ方法（手段）を選択できる新しいサービスを検討した。

特に KEISHIN.net を軸に、パーソナライズ化された学び支援と、学生の自己学習をマネジメントする仕組みの構築の最終段階に入っている。

<委員からのご意見等>

- ・デジタル化に少し遅れている印象だったが、KEISHIN.net を軸とした取り組みにより高い学習成果を示すことを社会に伝えることができれば、「選ばれる」「生き残る」学校になっていくと思うので、非常にポジティブな変更だと感じる。
- ・自分自身が日本福祉教育専門学校に在学中は、授業中にパソコンを開くような雰囲気ではなかったが、KEISHIN.net のようなサービスがあると、積極的にパソコンや IT ツールを活用するのはのではないかと思う。
- ・KEISHIN.net によって育成された方々が、どう自己実現しながら働き続けるか期待している。場合によっては転職する場面もあれば、ある程度のポストになり人を採用する場面も出てくると思うが、KEISHIN.net が今後生まれてくる横の繋がり、後輩の繋がりに活かされ、卒業生のネットワーク形成の仕組みとして機能していくことができれば良いと思う。
- ・効率化されるという意味ではとても良いと思うが、一方で、KEISHIN.net だけだと学校としての価値が逆になくなってしまわないかなと感じてしまう。
→仰る通りで、導入の狙いとしては、システムにより効率化しつつも人対人でなければできないコアな学習支援の時間をもっと作ろうと考えている。まさに学校が行うべき職業人材育成という観点で、学校として何を学生に提供し、どのような学びの気づきを持ってもらえれば良いか議論したいと考え、本日の議題に設定させていただいた。（岸本校長）

5. 現場で求められるコンピテンシー(高いパフォーマンスを発揮する人物に共通して見られる行動特性)について ※主に3年目の専門職人材に求められるコンピテンシーとは

<委員からのご意見等>

- ・「掛け合わせる力」だと考える。例えば、精神保健福祉士を持っている方が要件を満たせば、

ストレスチェックの実施者や健康経営エキスパートアドバイザーになることができる等、事業の掛け合わせが大事だと思う。

→仰るように、一つ一つの領域の間にあるようなものの繋がりが非常に大事で、専門性と専門性の狭間にあるものや、あるいは専門性と専門性を掛け合わせて新しい価値を創ることがこれからの社会に非常に重要であると感じている。(岸本校長)

- ・「**総合力**」を持つ意欲を示してもらえるかが、3年目の分岐点になると思う。
- ・「**メタスキル**」と言われる能力だと思う。どのようにして学校教育の中で養うかが非常に重要だと感じる。試験の成績と実習の成績が結びついてないケースもあり、現場目線では、メタスキルが影響される人間力やコミュニケーション力等を評価点として捉える傾向にある。その目指すスキル等をどれだけ学校教育の中で培うことができるかを示すことが非常に重要だと思う一方で、市場のニーズと現場が求める能力が必ずしも一致しない現状もあり、学校経営という観点では、何をPRしていくことが一番いいのかは難しく感じる。
→まさに学校経営上の課題だと思っている。資格を取る以外にもう一つ付加価値を付けることによって、競争優位性は出てくると考えており、職業教育機関として追求していきたいと考えている。
- ・資格のあり・なしは参考にはなるが、どこまで覚えているかよりも、「**どうやって調べることができるか**」というスキルの方が大事だと感じる。また、他校とも関わる中で、KEISHIN.netのようなシステムを導入しても、データドリブンを実行できる教員が少ないことが課題として散見される。
- ・社会人として現場でたくさんコミュニケーションをとることによって職業人としては洗練されていくと思う。正解のない領域でハードなことと向き合い続ける必要があるため、「**人の理不尽と向き合い**」ながら「**やり続ける力**」が求められる。
- ・現場での「プロフェッショナル」は現場で揉まれることで身につく。現場で「**大きく(その人の)心が動くような体験**」をしたかどうか重要だと思う。
- ・自分自身が日本福祉教育専門学校に在学していた際、グループワークは非常に新鮮味があり、非常に有益だった。「**変化**」を起こせる教育は大事だと感じる。
- ・ワークエンゲージメントの観点では「**捉え方**」が重要である。
- ・ジョブクラフティングの観点では、「**仕事のやり方を工夫する力**」や「**自分の変化に気づかせる**」ことを、学校教育の中でできると良いと思う。

6. 終わりに

第2回は、今回いただいたコンピテンシーを養成するために、学校と現場が共創してつくり上げるモデルを考えていきたいと考えている。学校が考えている構想も織り交ぜながら、より議論を深めていきたいと思う。

以上

(文責：日本福祉教育専門学校 小浜 悠樹)